

《専門教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	BTAL41002	
担当者氏名	岡本 洋之	担当形態	単独	
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選
		開講年次・開講期	1 年	・ I 期

《授業の概要》

教育を、歴史、社会、思想など多様な視点から検討し、教育と社会との関係や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《授業外学習》

学校教育はもとより、家庭教育、大人と子どもの関係、親と子の関係、地域社会と子どもの関係、子どもの遊び、子どもをめぐる生と死、子どもを取り巻く異文化と摩擦の問題、子どもの人権の問題、海外留学など、子どもに関する多岐にわたることがらに関心を広げ、活字情報等を摂取すること。

《テキスト》

授業中にプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamotoh@hyogo-dai.ac.jp

《参考図書》

教職教養 教育原理（教員採用試験情報研究会編、一ツ橋書店）

《備考》

適宜グループワークを行う。また担当者は教員として高等学校での勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
	主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のあり方と関連づけることができる。
	家族や社会による教育の歴史を理解している。
	子どもの権利と福祉について理解している。
	生涯学習の理念を理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	60
発表・実技	0
授業内課題	40
その他 ( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	人間とは何だろう	オリエンテーション（授業概要及び評価に関する説明）、人間の特質と教育	教育に関する日常の思いの整理	90
2	教育とは何だろう	教育の概念と本質	教育とは何か	90
3	人間と教育の関係を考えよう	子どもの発達と教育	子どもの発達	90
4	教育への理解を深めよう	教育の目的、形態と機能	教育の諸相	90
5	主な西洋教育思想とその系譜を見よう①	子ども観の変遷、代表的思想家とその教育思想	中世西洋教育思想	90
6	主な西洋教育思想とその系譜を見よう②	代表的思想家とその教育思想、教育思想と現代の教育	近代西洋教育思想	90
7	公教育制度の成立と発展を見よう①	教育・学校の起源と歴史、近代公教育の誕生	近代学校教育の始まり	90
8	公教育制度の成立と発展を見よう②	日本における明治期以前の教育、近代学校制度の成立	寺子屋以後の日本の教育	90
9	教育への理解をいっそう深めよう	教育の内容と方法	たとえば水道方式等の概要	90
10	日本における教育思想と教育方法の発展を見よう①	戦前まで	戦前までの日本教育史概要	90
11	日本における教育思想と教育方法の発展を見よう②	戦後	戦後日本教育史の流れ	90
12	子どもの実態と教育の関係を考えよう①	教育における「ケア」	現在の子どもの様子	90
13	子どもの実態と教育の関係を考えよう②	児童の福祉・保護と教育	教育と福祉の関係	90
14	未来の教育への展望を探ろう	生涯学習	生涯学習とは何か	90
15	本授業の総括	現代社会と教育、本授業の総括	これまでに扱った内容の整理	90

《専門教育科目》

科目名	教育実習事前事後指導			科目ナンバリング	BTAL44014
担当者氏名	岡本 洋之			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期
					4年・通年(I期)

《授業の概要》

本授業は必ず「高等学校教育実習」とセットで履修登録すること。また不定期開講となるため、掲示に十分注意されたい。年間のおおよその予定は次の通りである。

(1)教育実習事前学習会(模擬授業)→4月および5月、(2)教育実習に関する講話→同左、(3)教育実習報告会→6月、(4)高等学校授業見学→秋、(5)兵庫県播州地域に特有の教育問題に関する特別見学→冬。

《テキスト》

本学から発行される『教育実習の手引き』。なおテキストの内容を逐一説明する時間はないので、授業で取り扱わない内容も含め、テキストを隅々まで読んでおくこと。

《参考図書》

「高等学校教育実習」のページを参照。

《授業外学習》

科目の性質上、細かな授業技術や生徒との接し方、教材研究の仕方等、受講生各自で異なる課題を自分で見つけて意欲的な自学自習をしなければ、授業の目標に到達することができない。

《学習状況・理解度の確認》

毎時間の授業にて個別指導を行う。  
また成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィードバックを課す。なお担当者は教員として高等学校で勤務歴ある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	事前指導において教員としてあるべき態度を理解し、すでに教員である自覚をもつ。
	事後指導において、それを確実化する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	100
授業内課題	0
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション／教育実習に関する講話(1)	(オリエンテーション) 教員が授業の概要を説明し、細部に関しては受講生と協議する。	教育実習の心得	90
2	模擬授業(1)／教育実習に関する講話(2)	(模擬授業) 発声法、視線の向け方を中心に教室全体の把握を学ぶ。(講話) 休み時間や放課後も含め、生徒情報を収集することを学ぶ。	過去の教育実習の例からの学び	90
3	模擬授業(2)／教育実習に関する講話(3)	(模擬授業) 板書の仕方を学ぶ。(講話) 教材研究は必ず活字資料の裏づけを取ることを学ぶ。	既習の教職演習のまとめ	90
4	模擬授業(3)／教育実習に関する講話(4)	(模擬授業) 指名においては、個々の生徒への指導を全体に及ぼすことを学ぶ。	既習の人権教育のまとめ	90
5	模擬授業(4)／教育実習に関する講話(5)	(模擬授業) 生徒の視線を集めるための所作について学ぶ。(講話) 在日外国人生徒へのあるべき対応を学ぶため、関係する近代史	既習の近代史のまとめ	90
6	模擬授業(5)／教育実習に関する講話(6)	(模擬授業) PowerPoint等、効果的な提示物の利用法(講話) 在日外国人生徒へのあるべき対応	既習の現代史のまとめ	90
7	模擬授業(6)／教育実習に関する講話(7)	(模擬授業) 授業づくりのポイントのまとめ(講話) 人権問題、および体罰禁止の理由	ルソー『エミール』の再読	90
8	教育実習報告会	学部内公開の場で、教育実習の成果と課題を報告する。	実習の成果と課題のまとめ	90
9	不定期開講につき本表では表示できない。	以後は不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
10	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
11	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
12	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
13	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
14	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
15	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90

《専門教育科目》

科目名	教育実習事前事後指導			科目ナンバリング	BTAL44014
担当者氏名	岡本 洋之			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期
					4年・通年(Ⅱ期)

《授業の概要》

本授業は必ず「高等学校教育実習」とセットで履修登録すること。また不定期開講となるため、掲示に十分注意されたい。年間のおおよその予定は次の通りである。

(1)教育実習事前学習会(模擬授業)→4月および5月, (2)教育実習に関する講話→同上, (3)教育実習報告会→6月, (4)高等学校授業見学→秋, (5)兵庫県播州地域に特有の教育問題に関する特別見学→冬。

《テキスト》

本学から発行される『教育実習の手引き』。なおテキストの内容を逐一説明する時間はないので、授業で取り扱わない内容も含め、テキストを隅々まで読んでおくこと。

《参考図書》

「高等学校教育実習」のページを参照。

《授業外学習》

科目の性質上、細かな授業技術や生徒との接し方、教材研究の仕方等、受講生各自で異なる課題を自分で見つけて意欲的な自学自習をしなければ、授業の目標に到達することができない。

《学習状況・理解度の確認》

毎時間の授業にて個別指導を行う。  
また成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィードバックを課す。なお担当者は教員として高等学校で勤務歴ある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	事前指導において教員としてあるべき態度を理解し、すでに教員である自覚をもつ。
	事後指導において、それを確実化する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	100
授業内課題	0
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション/教育実習に関する講話(1)	(オリエ) 教員が授業の概要を説明し、細部に関しては受講生と協議する。	教育実習の心得	90
2	模擬授業(1)/教育実習に関する講話(2)	(模擬授業) 発声法、視線の向け方を中心に教室全体の把握を学ぶ。(講話) 休み時間や放課後も含め、生徒情報を収集することを学ぶ。	過去の教育実習の例からの学び	90
3	模擬授業(2)/教育実習に関する講話(3)	(模擬授業) 板書の仕方を学ぶ。(講話) 教材研究は必ず活字資料の裏づけを取ることを学ぶ。	既習の教職演習のまとめ	90
4	模擬授業(3)/教育実習に関する講話(4)	(模擬授業) 指名においては、個々の生徒への指導を全体に及ぼすことを学ぶ。	既習の人権教育のまとめ	90
5	模擬授業(4)/教育実習に関する講話(5)	(模擬授業) 生徒の視線を集めるための所作について学ぶ。(講話) 在日外国人生徒へのあるべき対応を学ぶため、関係する近代史	既習の近代史のまとめ	90
6	模擬授業(5)/教育実習に関する講話(6)	(模擬授業) PowerPoint等、効果的な提示物の利用法(講話) 在日外国人生徒へのあるべき対応	既習の現代史のまとめ	90
7	模擬授業(6)/教育実習に関する講話(7)	(模擬授業) 授業づくりのポイントのまとめ(講話) 人権問題、および体罰禁止の理由	ルソー『エミール』の再読	90
8	教育実習報告会	学部内公開の場で、教育実習の成果と課題を報告する。	実習の成果と課題のまとめ	90
9	不定期開講につき本表では表示できない。	以後は不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
10	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
11	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
12	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
13	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
14	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90
15	不定期開講につき本表では表示できない。	不定期開講につき本表では表示できない。本授業は学修時間合計をもって通年1単位としており、授業回数と単位数に関連はない。	同左	90

《専門教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	BTAL41004		
担当者氏名	大平 曜子	担当形態	単独		
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を修得し、教育における心理学的領域の理解を通して学習活動を支える人間科学的な視点を養うことができる。授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、それぞれの専門領域の教育に応用する方法を修得する。

《テキスト》

テキストは使用しない。  
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房  
その他、適宜紹介する。

《授業外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理する。  
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通す。  
専門用語や関心を持った事項は詳しく調べておく。

《学習状況・理解度の確認》

レポートはコメントを付して返却する。  
疑問や質問には個別に回答すると共に、次回の授業で補足説明をして理解を確認する。

《備考》

グループワークを数回実施する。  
「授業の振り返り」の記入し、提出することで参加状況を確認する。  
授業担当者は、教職経験をもつ実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	発達の概念と発達理解の意義を理解し、教育の観点から各発達段階を理解し課題を見出すことができる。
	学習の概念を理解し、代表的学習理論から学習の考え方をまとめ、発表することができる。
	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて説明できる。
	主体的な学習活動を支える学習指導法を専門科目と関連させて理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	10
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	20
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、本授業受講の意味を確認する。	次週の授業内容の確認	45
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。	配布プリントを読み理解する	60
3	発達の基礎理論 (1)	発達原理、発達の諸理論について理解する。	配布プリントを読み理解する	45
4	発達の基礎理論 (2)	発達の様相、成熟と発達を理解し、遺伝と環境などの関係因子を考える。	配布プリントを読み理解する	45
5	発達の基礎理論 (3)	発達の過程における段階的区分を理解し、各段階の発達内容や課題を確認する。	配布プリントを読み理解する	45
6	学習の基礎理論 (1)	学習の成立、学習の過程、知能と学力について理解する。	配布プリントを読み理解する	45
7	学習の基礎理論 (2)	学習の理論、学習の概念	配布プリントを読み理解する	45
8	教育評価 (1)	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解。グループを形成し、評価観点を決定して相互評価を行う。	課題のための資料の収集	90
9	学習の基礎理論 (3)	記憶の種類と特徴、記憶と学習	課題の作成	120
10	学習の基礎理論 (4)	動機づけとやる気、意欲と学習活動 動機づけを高める工夫	課題の作成	120
11	教育評価 (2)	学力と知能と性格の測定 測定と評価の実際	配布プリントを読み理解する	45
12	教育評価 (3)	相互評価の実際	配布プリントを読み理解する	45
13	学習指導法	発見学習、プログラム学習、グループ学習等、授業の最適化	配布プリントを読み理解する	45
14	教師と児童生徒のコミュニケーションと集団の理解	コミュニケーション能力と対人関係、教師が及ぼす影響力 「集団」の促進機能、抑制機能	配布プリントを読み理解する	60
15	教育における心理学の働きまとめ	教育相談、人間関係。 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明する。	授業内容の整理 試験対策	120

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	BTAL41005	
担当者氏名	古田 薫	担当形態	単独	
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選
		開講年次・開講期	2 年	・ I 期

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。

《テキスト》

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』（古田薫、山下晃一編著 ミネルヴァ書房）  
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『解説教育六法』三省堂  
『図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』坂田 仰他、教育開発研究所

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。
	教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。
	教育行政の仕組みや学校制度について理解している。
	学校運営について理解している。
	今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《授業外学習》

- ・授業の前までに教科書の当該箇所目を通しておく。
- ・授業の要点をまとめたノートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

授業の終わりに提出するリアクションペーパーで理解度を把握し、補足や質問に対する回答を行う。  
小テーマごとにミニテストを実施する。

《備考》

- ・必要に応じてグループ学習やディスカッションを実施する。
- ・配布資料は順番に整理し、ファイルに保存しておくこと。
- ・授業でわからなかった点は調べたり、次回の授業時に質問すること。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	5
授業内課題	0
その他（まとめノートの提出）	15
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育行政と教育制度の基礎知識	・教育制度を学ぶ意義を理解する。 ・教育行政、教育制度の基本概念を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。	テキスト予習 まとめノートの	45
3	憲法教育基本法制①教育に関する規定	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。 ・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
4	憲法教育基本法制②教育基本法	・教育基本法の意義と内容を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
5	学校教育の基本	・学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
6	教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会	・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
7	教育行政のしくみ②教育委員会	・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。 ・教育委員会制度の概要と意義を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
8	教育を受ける権利の保障	・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。	テキスト予習 まとめノートの	45
9	学校の組織と運営①チーム学校	・学校運営の基本原則とチーム学校の意義を理解する。 ・学校評価について理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
10	学校の組織と運営②学校運営の管理	・学校運営におけるさまざまな管理を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
11	学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規	・学校と保護者・地域に関する法規と制度を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
12	教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領	・学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
13	学校運営と学校安全	・学校安全/学校保健の目的と必要性を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
14	児童生徒に関する法規	・就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
15	児童生徒をめぐる様々な問題	・学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等について理解する。	学校における諸問題についてレ	90

《専門教育科目》

科目名	教育相談(カウンセリングを含む。)			科目ナンバリング	BTAL43012
担当者氏名	原 志津			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					3 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育相談は、幼児、児童、及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童、生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む）を身に付ける。

《授業外学習》

授業で紹介する事柄で、関心のあることには積極的に調べて学んでください。このことについて学ぶための本のリストを初回授業で配布するので、その中から一冊を選んで手書きで5枚の感想文をかいて、最終授業日に提出してください。

《テキスト》

コンパス「教育相談」 建帛社 住本克彦編著

《学習状況・理解度の確認》

小テストやレポートはコメントをつけて返却する。最終回の「まとめ」は全体的な講評を伝える。

《参考図書》

学習指導要領(文部科学省) 生徒指導提要(文部科学省) 「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」 滝口・田中 創元社

《備考》

教員は、臨床心理士の資格をもつ実務家教員である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	カウンセリングの基本技術を学ぶ。
	自分自身のところに焦点を当てる方法を学ぶ。
	子どもたちのサインに気づき、こころの成長・変化のプロセスを知る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	65
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	0
その他(授業態度)	15
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	15回の授業の構成について。「人の話しきく」ということの意味を考へる。	配布資料を読んで復習	45
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について学ぶ。	基本用語の整理	45
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習(ロールプレイ)をおこなう。	ロールプレイの感想レポート	45
4	カウンセリングのプロセスについて	カール・ロジャーズの「心理療法の過程概念」を学ぶ。	配布資料の整理	45
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「過程概念」から発展した「フォーカシング」について学び、実際に体験して学ぶ。	小テストの準備	45
6	自分自身のテーマを知る	カウンセリングについて的小テスト(30分)、自分自身のテーマを知るための心理テストを体験する。	心理テストの感想レポート	45
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる「症状」について臨床心理学の考え方を学ぶ。	配布資料の復習・予習	45
8	軽度発達障害について学ぶ	軽度発達障害について学ぶ	配布資料の復習・予習予習	45
9	軽度発達障害について学ぶ(2)	軽度発達障害について、運動発達という側面から学ぶ	配布資料の整理	45
10	いじめの被害者・加害者への理解と対応	学校と教育の場でいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考へる。	配布資料の復習	45
11	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ	配布資料の復習	45
12	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景とその理論について学び、ひとつの事例について知る	映像教材に対する感想レポート	45
13	不登校の子どもへの理解と対応	どのような態度で子どもたちに向き合えば、不登校の子どもたちの問題解決につながるのか考へる。	配布資料の予習と演習の復習	45
14	教師のメンタルケア・教育と福祉の連携	子どもたちの心のケアと教師のメンタルケア・教育と福祉の連携-ソーシャルワーカーの役割を知る。	配布資料の予習と復習	45
15	学習のまとめ	自分なりに今後の教育現場で活かせるよう授業の学びをふりかえる。	配布資料の整理	60

《専門教育科目》

科目名	教育方法・技術論		科目ナンバリング	B TAL42010
担当者氏名	吉永 潤		担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選 開講年次・開講期 2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育方法・技術及び教育評価に関する基礎的理論・概念の理解を踏まえ、現代社会が求める主体的、対話的で深い学びの実現を生む教育方法と技術についての理解、とりわけ情報機器の教育的機能についての理解を深める。以上の上で、学習指導案の作成をグループ作業として体験し、成果を相互に交流・批評する。

《授業外学習》

グループで学習指導案作成を行うため、授業外でのグループワークを要する。

《テキスト》

WEBにて資料配布を行う。

《学習状況・理解度の確認》

各授業後に小レポートを課する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する—未来を開くコミュニケーション型授業の提案』東信堂、2015

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教育方法の基礎的理論を理解し、教育実践での活用が行える。
	現代の教育実践に求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教育方法の重要性を理解して深い学習と対話的授業の実現のために情報機器の活用方法が理解でき、実践活用できる。
	学習者自身の情報機器活用能力育成と情報モラル形成の意義が理解できる。
	以上を踏まえて学習指導案を構成でき、その相互批評を通じて授業改善の重要性が理解できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	0
その他(授業内レポート)	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業と学びの質を左右する教育方法・教育技術・情報機器活用	授業内容の復習	45
2	教育方法の基礎的理論と概念	教授と学習、教育方法と教育内容、問題解決学習と系統学習	授業内容の復習	45
3	現代に求められる教育方法1	知識・理解とその主体的・実践的活用能力の育成	授業内容の復習	45
4	現代に求められる教育方法2	対話・コミュニケーション能力と協同的問題解決能力の育成	授業内容の復習	45
5	授業と学習を構成する環境1	学習素材としての教科書、教材、学習者の多様な既有経験	授業内容の復習	45
6	授業と学習を構成する環境2	情報機器の意義とその活用法	授業内容の復習	45
7	学習と授業の評価1	教育目標と学習評価の不即不離性、多様な学習評価の考え方と方法	授業内容の復習	45
8	学習と授業の評価2	学習評価を通じた授業の評価と改善のサイクル	授業内容の復習	45
9	対話的授業を生む教育方法1	多様性と対話を生み出す教材構成と問い・課題設定	授業内容の復習	45
10	対話的授業を生む教育方法2	学びを可視化・共有・定着させる板書と情報機器活用	授業内容の復習	45
11	対話的授業を生む教育方法3	学習者による情報機器活用能力の育成と情報モラルの形成	授業内容の復習	45
12	学習指導案の開発と交流1	グループ形成、教科選定、教材・指導案構成の話し合い	グループワーク	90
13	学習指導案の開発と交流2	学習指導案プレゼンテーション1	グループワーク	90
14	学習指導案の開発と交流3	学習指導案プレゼンテーション2	グループワーク	90
15	講義全体のまとめ	学習指導案の相互評価と授業全体の振り返りディスカッション	授業内容の全体に関する復習	45

《専門教育科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	BTAL41001	
担当者氏名	古田 薫	担当形態	単独	
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選
		開講年次・開講期	1 年	・ I 期

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《テキスト》

『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3）』 広岡義之・津田徹（編著）、ミネルヴァ書房

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』

《参考図書》

授業中に指示します。

《授業外学習》

配布された資料を読んでレポートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業終了時に提出する学習記録カードをコメントを付して返却する。また、質問や重要なコメントに関しては授業内で取り上げて解説する。

《備考》

必要に応じて、グループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。
	教員養成と教員免許制度について理解している。
	教員の任免と服務について理解している。
	教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
	教員に求められる資質能力と研修について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	10
レポート	20
発表・実技	5
授業内課題	5
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教職とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。	教員採用試験について	60
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。	良い教員とは	60
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。	プリントを読んで感想を書く	60
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。	採用試験合格に向けた計画	45
5	教員の職務①:教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。	校務分掌について調べる	45
6	教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。	教員の日をレポートする	45
7	教員の職務③:保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいかを考察する。	事例を調べる	45
8	教員の職務④:アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。	学校評価の結果を分析する	45
9	教員の人事管理①:服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60
10	教員の人事管理②:任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60
11	教員の人事管理③:教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。	教員としてのキャリア計画	45
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。	プリントを読んで感想を書く	60
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。	事例を調べる	45
15	目指す教員像と課題	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。 ・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を	どのような教員をめざすか	60



《専門教育科目》

科目名	教職実践演習（高）			科目ナンバリング	BTAL44016
担当者氏名	岡本 洋之			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 4 年 ・ II 期

《授業の概要》

本学がこれまでに培ってきた学校現場等（教育委員会及び教職経験者）との緊密な関係を十分に活用し、教職課程の学びの集大成として行う。その際に以下の4事項に関する内容を含む。

- (1) 使命感や責任感、教育的愛情等  
能力  
(2) 社会性や対人関係能力  
(3) 生徒理解や学級経営等  
(4) 教科内容等の指導力

《テキスト》

特には指定せず、必要に応じて印刷物を配布する。

《参考図書》

- (1) 西之園晴夫・宮寺晃夫『教育の方法と技術』（佛教大学教育学叢書）(2) 西岡加名恵、川地亜弥子『教職実践演習ワークブック ポートフォリオで教師力アップ』（ミネルヴァ書房）

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	受講生が身に付けてきた資質能力を教育現場で指導できる能力として有機的に統合し、形成する。

《授業外学習》

学生個々人によって未到達の目標や課題や不足している知識・技術は異なるので、各人が自分でこれを整理すること。もちろん授業担当者は全力で支援する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業終了時に小レポートを課し、それを用いて授業時間外をも含め、フィードバックを行う。なお授業担当者のメールアドレスは okamotoh@hyogo-dai.ac.jp である。

《備考》

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークを課す。なお担当者は教員として高等学校で勤務歴ある実務経験者である。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	40
授業内課題	50
その他（個別補完指導）	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の到達目標を明示した上で、学生がこれまでの学修を振り返りグループ討論し、各学生が未だ到達していない目標を自覚、確認する。	教職課程での学修の振り返り	90
2	教職とは何か	ロールプレイングを通して教職の意義や教員の役割、職務内容、使命感や責任感、子どもに対する責任と教育的愛情等について振り返る。	左に関する学修の振り返り	90
3	教職に求められる資質	新聞記事等を題材とし教員の行動と社会的評価に関する問題についてグループ討論を通じ、社会性や対人関係能力について振り返る。	社会性や対人関係能力について	90
4	生徒理解と学級経営①	学校現場教員における生徒理解や学級経営等に関する問題についてグループ討論し、それをもとに各自学級経営案を作成する。	左に関する学修の振り返り	90
5	生徒理解と学級経営②	作成した学級経営案についてグループ討論を行い、生徒理解や学級経営等に関する問題をより深く理解する。	左に関する学修の振り返り	90
6	学校見学の事前学習	次回に見学する学校の特色の理解と、学校現場で見学すべきポイントを取りまとめ学校見学の準備を行う。	学校見学の心得の再確認	90
7	学校見学	学校現場を見学し、見学レポートを作成する。	見学レポートの作成と再点検	90
8	学校見学の事後学習①	見学レポートに基づき、社会性、対人関係能力についてのグループ討論を行う。	左に関する学修の再振り返り	90
9	学校見学の事後学習②	見学レポートに基づき、生徒理解、学級経営等についてのグループ討論を行う。	左に関する学修の再振り返り	90
10	教科内容の指導力	教科内容等の指導力の意義についてグループ討論を行う。	左に関する学修の振り返り	90
11	模擬授業①	模擬授業を実施する（学生A）。	模擬授業の評価を考える	90
12	模擬授業②	模擬授業を実施する（学生B）。	模擬授業の評価を考える	90
13	模擬授業③	模擬授業を実施する（学生C）。	模擬授業の評価を考える	90
14	各自の課題の確認	模擬授業をふまえ、教科内容等の指導力についてグループ討論し、各自の課題を確認する。	左に示した自分の課題を考える	90
15	本授業の総括	全体討論を通じ、本授業で扱った4つの資質能力が不可分であり、教員はこの資質能力の向上を図っていかねばならないことを学ぶ。	教職課程全体の振り返り	90

《専門教育科目》

科目名	公民科教育法	科目ナンバリング	BTPU43001
担当者氏名	關 浩和	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	4 ・ 選
		開講年次・開講期	3 年 ・ 通年 (I 期)

《授業の概要》

従来の社会科から公民科・地理歴史科となった背景を理解するとともに、学習指導要領に準拠した公民科指導法についての理解を深める。学習指導案の作成を通して基礎的な授業実践力の涵養を図る。

《授業外学習》

授業計画欄に記載の予習・復習等の内容に従い、事前・事後学修を行うこと。また、教科書や参考図書の該当箇所を読んでおくこと。

《テキスト》

・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版、2013 年

《学習状況・理解度の確認》

課題等には、コメントを付して返却する。

《参考図書》

①社会認識教育学会編『公民科教育』学術図書出版、2016年  
②高等学校公民科教科書(現代社会, 倫理, 政治・経済)のいずれか一冊用意すること(高等学校時に使用した教科書でも可)

《備考》

「成績評価の方法と評価の割合」を基準として総合的に評価する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	公民科教育成立の歴史的背景について理解することができる。
	公民科教育の意義とその目標・内容・方法についての認識を深めることができる。
	公民科教員としての基礎的資質を養い、学習指導案の作成や模擬授業を通して授業実践力を培うことができる。
	「現代社会における公的資質」の基礎を養う力を身につけることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	30
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	10
授業内課題	10
その他(備考欄参照)	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	公民科教育法を学ぶ楽しさとは	配布資料通読	45
2	社会系教科教育の成立過程	社会科から公民科へ (1) 社会系教科教育の成立過程	配布資料通読	45
3	公民科教育の成立と意義	公民科教育の成立と展開 (2) 公民科教育の成立と意義	参考図書① p. 2～p. 7 要約	45
4	公民科の目標と構造	公民科の学習指導要領について (1) 目標と構造	テキスト p. 2～p. 5 要約	45
5	公民科の内容と特質	公民科の学習指導要領について (2) 内容と特質	テキスト p. 6～p. 10 要約	45
6	公民科の年間指導計画	公民科授業づくりのための年間指導計画の作成方法について	参考図書① p. 30～p. 40 通読	60
7	公民科の教材研究法	公民科授業づくりのための教材研究と学習指導のあり方について (1)	参考図書① p. 40～p. 45 通読	60
8	「倫理, 政治・経済」の学習指導	公民科授業づくりのための教材研究と学習指導のあり方について (2)	参考図書① p. 50～p. 60 通読	60
9	「現代社会」の指導内容・方法	「現代社会」の教育目標と指導内容・指導方法について	参考図書② 該当箇所通読	60
10	「倫理」の指導内容・方法	「倫理」の教育目標と指導内容・指導方法について	参考図書② 該当箇所通読	60
11	「政治・経済」の目標・内容・方法	「政治・経済」の教育目標と指導内容・指導方法について	参考図書② 該当箇所通読	60
12	「現代社会」の授業デザイン	学習指導案の作成 (1) 「現代社会」	参考図書② 該当箇所通読	60
13	「倫理」の授業デザイン	学習指導案の作成 (2) 「倫理」	参考図書② 該当箇所通読	60
14	「政治・経済」の授業デザイン	学習指導案の作成 (3) 「政治・経済」	参考図書② 該当箇所通読	60
15	公民科の授業デザイン総括	学習指導案の作成 (4) 全体協議とまとめ	講義内容の整理	60

《専門教育科目》

科目名	公民科教育法			科目ナンバリング	BTPU43001
担当者氏名	關 浩和			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	4	・ 選	開講年次・開講期
					3 年 ・ 通年(Ⅱ期)

《授業の概要》

従来の社会科から公民科・地理歴史科となった背景を理解するとともに、学習指導要領に準拠した公民科指導法についての理解を深める。あわせて模擬授業等を通して基礎的な授業実践力の涵養を図る。

《授業外学習》

授業計画欄に記載の予習・復習等の内容に従い、事前・事後学修を行うこと。また、教科書や参考図書の指定箇所を読んでおくこと。

《テキスト》

・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版、2013 年

《学習状況・理解度の確認》

課題等には、コメントを付して返却する。

《参考図書》

①社会認識教育学会編『公民科教育』学術図書出版、2016年  
②高等学校公民科教科書(現代社会, 倫理, 政治・経済)のいずれか一冊用意すること(高等学校時に使用した教科書でも可)

《備考》

「成績評価の方法と評価の割合」を基準として総合的に評価する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	公民科教育成立の歴史的背景について理解することができる。
	公民科教育の意義とその目標・内容・方法についての認識を深めることができる。
	公民科教員としての基礎的資質を養い、学習指導案の作成や模擬授業を通して授業実践力を培うことができる。
	「現代社会における公的資質」の基礎を養う力を身につけることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	30
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	10
授業内課題	20
その他(※備考欄参照)	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	社会系教科授業のビデオ視聴	教育実習生の模擬授業のビデオ視聴と協議	メモの整理	45
2	社会系教科授業のビデオ視聴	ベテラン教師の授業のビデオ視聴と協議	ビデオ授業のふりかえり	60
3	模擬授業のための教材研究①	教材研究－グループ別討議①－	授業デザインの検討	60
4	模擬授業のための教材研究②	教材研究－グループ別討議②－	授業デザインの検討	60
5	模擬授業の学習指導案作成①	学習指導案の作成－グループ別討議①－	授業デザインの検討	60
6	模擬授業の学習指導案作成②	学習指導案の作成－グループ別討議②－	授業デザインの検討	60
7	模擬授業①「現代社会」	模擬授業(1)－現代社会－	授業デザインの検討	60
8	模擬授業②「倫理」	模擬授業(2)－倫理－	授業デザインの検討	60
9	模擬授業③「政治・経済」①	模擬授業(3)－政治－	参考図書①通読 pp. 10～15	60
10	模擬授業④「政治・経済」②	模擬授業(4)－経済－	参考図書①通読 pp. 111～115	60
11	公民科教育における評価	授業評価及び評価問題の作成	参考図書①通読 pp. 111～115	60
12	公民科教育の実践的課題	公民科の教育実習の心構えと実践的課題	参考図書①通読 pp. 120～122	60
13	公民科教育の新動向	諸外国の公民科教育について	参考図書①通読 pp. 90～95	60
14	公民科教育の課題	公民科教育が抱える現状と課題について －SDGs(持続可能な開発目標)を手がかりに－	テキスト要約 pp. 100～102	90
15	総括	公民科教育法のまとめと評価	テキスト要約 pp. 111～115	90

《専門教育科目》

科目名	高等学校教育実習			科目ナンバリング	BTAL44015
担当者氏名	岡本 洋之			担当形態	単独
授業方法	実習	単位・必選	2	・選	開講年次・開講期 4年・I期

《授業の概要》

受講生は全員が、定められた期間、あらかじめお願いをしてきた高等学校で、受入れ校の指導教員のアドバイスを承りながら、学校教育の見学と実践を行う。

《授業外学習》

科目の性質上、細かな授業技術や生徒との接し方、教材研究の仕方等、受講生各自で異なる課題を自分で見つけて意欲的な自学自習をしなければ、授業の目標に到達することができない。

《テキスト》

とくに定めないが、全員が『教育実習日誌』と『教育実習の手引き』を実習校に毎日持参し、日誌の所定欄に記入するとともに、指導教員に所見等の記入をお願い申し上げること。

《参考図書》

- ・教育実習を考える会編『実践「教育実習」』教育実習を考える会編(蒼丘書林)
- ・教師養成研究会編著『教育実習の研究』(学芸図書)ほか。

《学習状況・理解度の確認》

実習期間中に担当教員が実習校に赴き、現地指導を行う。また成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamotoh@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

本科目は実習である。履修登録には、単位取得に関する要件を満たしたうえで前年度中に実習校から教育実習受入れ内諾を得ていること。なお担当者は教員として高等学校で勤務歴ある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教科に関する科目と教職に関する科目の総決算ともいうべき教育実習を成功させる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	100
授業内課題	0
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
2	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
3	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
4	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
5	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
6	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
7	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
8	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
9	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
10	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
11	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
12	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
13	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
14	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90
15	授業の性質上、本表では表示できない。	授業の性質上、本表では表示できない。	同左	90

《専門教育科目》

科目名	商業科教育法			科目ナンバリング	BTAC43001
担当者氏名	池田 武			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	4	・ 選	開講年次・開講期
					3年・通年(I期)

《授業の概要》

商業科教員を目指す学生には必修の科目です。「高等学校学習指導要領解説商業編」を中心に商業教育の意義・目標、各科目の目標や内容について、指導要領を分析し、商業科の教員として第一に必要な確かな学力を育むための学びの教授内容を理解します。その後、年間学習計画の立案、学習指導案の作成、模擬授業の実施と一連の流れを通して実践的に理解し、教員としての資質を高めていきます。また、各自の模擬授業について討論を行い、有効な指導方法を用いた教授方法を養う。

《テキスト》

- ・高等学校学習指導要領解説商業編(2018)
- ・高等学校用商業教科書

《参考図書》

- ・「指導と評価の一本化」のための学習評価に関する参考資料(2021)
- ・最新商業科教育法 日本商業教育学会(2011)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	1 商業教育の目標および各科目の内容について理解する。
	2 教材研究の方法について理解し、指導案に反映するための訓練を行う。
	3 指導案を基に模擬授業を実施し、有効な教授方法を学ぶ。
	4 教育課程や履修・修得を理解し、年間の指導計画を立てることができる。
	5 教員としての服務や資質を理解し、教員として研鑽をつむ

《授業外学習》

高度な専門的知識を習得するために専門書を読む。高等学校商業科目の教科書を熟読する。

《学習状況・理解度の確認》

・専門知識についての試験・学習指導案の作成状況および模擬授業内容等により学習状況・理解度の確認を行う。

《備考》

・GIGAスクール構想やBYOD端末の導入に対応したICT活用を図る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	0
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	ガイダンス、商業教育とは	ガイダンス、商業教育の概略。履修者の理解度や習熟度に応じて多少変更することがある。	テキストp.1～p.10 通読	45
2	商業教育の歴史・商業科目の推移	商業教育の歴史と商業科目の推移を理解する。	テキストp.11～p.15 通読	60
3	ビジネス教育とは	ビジネス教育の目標を理解する。	テキストp.1～p.10 通読	60
4	ビジネス教育の現状と学習指導案の作成	ビジネス教育の現状を理解し、学習指導案の作成方法を理解する。	テキストp.95～p.106 通読	60
5	まとめ 課題発表	2・3・4週の授業の振り返りと課題項目についての報告する。	これまでの授業内容の整理	90
6	ビジネス基礎について	ビジネス基礎の内容の概略と指導上の留意点を理解する。	テキストp.11～p.15 通読	60
7	ビジネス基礎の学習指導案作成	ビジネス基礎の学習指導案作成する。	学習指導案作成	60
8	ビジネス基礎についての模擬授業と討論	6・7週の授業の振り返りと模擬授業を行う。	模擬授業の準備	60
9	ビジネス経済分野について(その1)	ビジネス経済(グローバル経済)、ビジネス経済応用(ビジネス・マネジメント)、ビジネス法規の内容を理解する。	テキストp.37～p.45 通読	60
10	ビジネス経済分野について(その2)	経済活動と法の内容を理解する。	テキストp.46～p.50 通読	60
11	ビジネス経済分野の学習指導案作成	ビジネス経済分野の学習指導案作成を作成する。	学習指導案作成	60
12	ビジネス経済分野についての模擬授業と討論	10・11週の授業の振り返りと模擬授業を行う。	模擬授業の準備	60
13	会計分野について(その1)	簿記の内容の概略と指導上の留意点を理解する。	テキストp.51～p.54 通読	60
14	会計分野について(その2)	財務会計I、財務会計IIの内容の概略と指導上の留意点を理解する。	テキストp.55～p.63 通読	60
15	まとめ 課題発表	13・14週の授業の振り返りと課題項目についての報告する(発表形式)。	これまでの授業内容の整理	60

《専門教育科目》

科目名	商業科教育法			科目ナンバリング	BTAC43001
担当者氏名	池田 武			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	4	・ 選	開講年次・開講期
					3年・通年(Ⅱ期)

《授業の概要》

商業科教員を目指す学生には必修の科目です。「高等学校学習指導要領解説商業編」を中心に商業教育の意義・目標、各科目の目標や内容について、指導要領を分析し、商業科の教員として第一に必要な確かな学力を育むための学びの教授内容を理解します。その後、年間学習計画の立案、学習指導案の作成、模擬授業の実施と一連の流れを通して実践的に理解し、教員としての資質を高めていきます。また、各自の模擬授業について討論を行い、有効な指導方法を用いた教授方法を養う。

《テキスト》

- ・「指導と評価の一本化」のための学習評価に関する参考資料(2021)
- ・最新商業科教育法 日本商業教育学会 (2011)

《参考図書》

- ・文部科学省(2015)『高等学校学習指導要領総則編』東山書房
- ・日本商業教育学会 (2011) 『商業科教育法』実教出版
- ・その他適宜指示する

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	1 商業教育の目標および各科目の内容について理解する。
	2 教材研究の方法について理解し、指導案に反映するための訓練を行う。
	3 指導案を基に模擬授業を実施し、有効な教授方法を学ぶ。
	4 教育課程や履修・修得を理解し、年間の指導計画をたてることのできる。
	5 教員としての服務や資質を理解し、教員として研鑽をつむ。

《授業外学習》

高度な専門的知識を習得するために専門書を読む。高等学校商業科目の教科書を熟読する。

《学習状況・理解度の確認》

・専門知識についての試験・学習指導案の作成状況および模擬授業内容等により学習状況・理解度の確認を行う。

《備考》

・GIGAスクール構想やBYOD端末の導入に対応したICT活用を図る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	0
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	会計分野について(その3)	原価計算、管理会計。履修者の理解度や習熟度に応じて多少変更することがあります。	テキストp.64～p.71 通読	60
2	会計分野についてのまとめ	会計の授業の振り返りと課題項目について報告する。	これまでの授業内容の整理	60
3	会計分野についての学習指導案作成	会計の学習指導案作成する。	学習指導案作成	60
4	ビジネス情報分野についての模擬授業と討論	会計の授業の振り返りと模擬授業を行う。	模擬授業の準備	60
5	マーケティング分野について(その1)	マーケティングの内容の概略と指導上の留意点を理解する。	テキストp.24～p.27 通読	60
6	マーケティング分野について(その2)	商品開発、広告と販売促進、観光ビジネスの内容の概略と指導上の留意点を理解する。	テキストp.28～p.36 通読	60
7	マーケティング分野についての模擬授業と討論	5・6週の授業の振り返りと模擬授業を行う。	模擬授業の準備	60
8	ビジネス情報分野	ビジネス情報分野の内容の概略と指導上の留意点を理解する。	テキストp.72～p.85 通読	60
9	ビジネス情報分野と総合実践・ビジネス実務	総合実践・ビジネス実務の内容の概略と指導上の留意点	テキストp.18～p.23 通読	60
10	ビジネス情報分野についての模擬授業と討論	ビジネス情報の授業の振り返りと模擬授業を行う。	模擬授業の準備	60
11	ビジネス倫理教育と実践例	ビジネス倫理教育の指導方法と実践例による留意点を理解する。	指示された書物を読む	90
12	アクティブラーニングによる実践	協同学習やケースメソッド法について理解する。	指示された書物を読む	90
13	ビジネス科目の評価・測定について	ビジネス科目の評価・測定について考える。	指示された書物を読む	90
14	21世紀のビジネス教育	これからのビジネス教育について考える。	指示された書物を読む	90
15	教員の資質・研鑽・教授方法	教員としての心構え・教授方法等について考える。	指示された書物を読む	90

《専門教育科目》

科目名	進路指導論	科目ナンバリング	BTAL43013	
担当者氏名	古川 雅文	担当形態	単独	
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選
		開講年次・開講期	3 年	・ I 期

《授業の概要》

進路指導は、生徒一人ひとりが自分の将来の生き方への関心を深め、主体的に将来の進路選択・計画を行い、将来の適応に必要な能力をはぐくむために、教師が計画的、組織的、継続的に取り組む教育活動である。近年ではキャリア教育として、より広く、キャリア発達を促す指導・援助の系統的な展開が目指されている。この授業では、進路指導・キャリア教育の意義、内容、及び方法を確認するとともに、それらの背景となる理論についても学習する。

《テキスト》

- ・小泉令三・古川雅文・西山久子（編）「キャリア教育一生涯にわたる生き方教育の理解と実践」北大路書房
- ・必要に応じてプリントも配布する

《参考図書》

文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」教育出版、文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」教育出版。（これらはネット上でも参照可能）。その他、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	進路指導の意義、内容および方法について理解し、説明することができる。
	キャリア教育の意義、内容、方法、および背景となる理論について理解し、説明することができる。
	キャリア教育を組織的・計画的に実行する方法を理解し、計画を立案できる。

《授業外学習》

- ・教科書等の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業後には、授業で配布された資料等を活用して、授業内容の振り返りを行うこと。

《学習状況・理解度の確認》

- ・授業の要点と感想を書いてもらい、後にコメントを口頭で伝える。

《備考》

- ・一部、グループ学習を取り入れ、学生の意見を聞きながら講義を進めるなど、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を心がける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	40
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	進路指導の意義と内容	学校における進路指導の意義と内容について論考する。	配布されたプリントを読む	60
2	進路指導・キャリア教育の歴史と社会的背景	職業教育、進路指導からキャリア教育と変遷していった歴史を振り返り、その社会的背景について概説する。	配布されたプリントを読む	60
3	キャリア教育の意義と内容	学校におけるキャリア教育の意義と内容について概説する。	テキストの第1章を通読	60
4	進路指導・キャリア教育の理論1(特性論)	進路指導・キャリア教育の理論的背景の一つである特性論について概説する。	テキストのp14～p17を通読	60
5	進路指導・キャリア教育の理論2(発達理論)	進路指導・キャリア教育の理論的背景の一つである発達理論について概説する。	テキストのp.17～p.20を通読	60
6	進路指導・キャリア教育の理論3(学習理論)	進路指導・キャリア教育の理論的背景の一つである学習理論について概説する。	テキストのp.21を通読	60
7	教育課程と進路指導・キャリア教育	進路指導・キャリア教育と教育課程との関係について解説する。	テキストの第3章を通読	60
8	進路指導・キャリア教育の方法と技術	進路指導・キャリア教育で用いられる特徴ある教育方法について解説する。	テキストの第4章を通読	60
9	小学校におけるキャリア教育実践	小学校におけるキャリア教育の実践について解説する。	テキストの第8章を通読	60
10	中学校におけるキャリア教育実践	中学校におけるキャリア教育の実践について解説する。	テキストの第9章を通読	60
11	高等学校におけるキャリア教育実践	高等学校におけるキャリア教育の実践について解説する。	テキストの第10章を通読	60
12	進路相談・キャリアカウンセリングの基礎	進路相談とキャリアカウンセリングの基礎について概説する。	テキストの第7章を通読	60
13	進路指導・キャリア教育の組織と推進	進路指導・キャリア教育を行うための組織と推進方法について概説する。	テキストの第6章を通読	60
14	進路指導・キャリア教育の評価	進路指導とキャリア教育の評価方法について概説する。	テキストの第5章を通読	60
15	諸外国におけるキャリア教育	諸外国、特にアメリカにおけるキャリア教育について概説し、わが国のキャリア教育と比較する。	テキストの第14章を通読	60

《専門教育科目》

科目名	生徒指導論			科目ナンバリング	BTAL42011
担当者氏名	上田 裕司			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年・I期

《授業の概要》

受講者は、「学習指導と並ぶ学校における重要な教育活動である生徒指導が、児童生徒一人一人の人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して、全ての教育活動を通じて行われるものである」ことを理解し、教師としての対応力を身につける。

《授業外学習》

テキストの生徒指導提要のページをしっかりと呼んでおくこと。

《テキスト》

生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

《学習状況・理解度の確認》

毎回のコメント用紙に記入された事柄について、重要と考えられるものについて講義のはじめに解説する。

《参考図書》

子どもの社会性を育む積極的生徒指導（中村豊著、学事出版）

《備考》

必要に応じてグループワークを実施する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	生徒指導の意義や原理について理解する
	全ての学級・学年・学校における生徒指導の進め方について理解する
	生徒指導上の課題を把握しチームとしての学校を確立し外部関係機関との連携を含めた生徒指導の在り方を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	40
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	30
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	積極的生徒指導の意義と原理		60
2	生徒指導と学習指導	生徒指導と各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連について	生徒指導提要P23	60
3	校内における組織体制の在り方	学校における生徒指導体制と教育相談や特別支援教育校内支援体制と連携及びその違いについて	生徒指導提要P88-89	60
4	集団と個	全体指導と個別指導に対応できる柔軟な対応策について	生徒指導提要P75-77	60
5	生徒指導に関する調査結果	学校における問題行動の現状と課題	文部科学省HP	60
6	事例研究	いじめについての具体的な対応策の検討	生徒指導提要P173-174	60
7	事例研究	不登校等について、家庭訪問を含めた対応策の検討	生徒指導提要P187-189	60
8	事例研究	児童虐待について児童相談所や警察との連携を通じた対応策について	生徒指導提要P212-217	60
9	児童生徒理解と生徒指導	発達障害の児童生徒への理解と学級づくりについてLD、ADHD、ASD等の児童生徒と集団の関り	生徒指導提要P42-537	60
10	講義と事例研究	校種間連携の現状と課題	生徒指導提要P75-77	60
11	生徒指導と連携	児童生徒の問題行動をめぐる学校・家庭・地域・関係機関の連携の現状と課題（青少年の行動の理解－インターネットと性）	生徒指導提要P178-179	60
12	特別活動との関連	生徒指導と学級・学校経営について	生徒指導提要P138-141	60
13	法規に準じた生徒指導	問題行動に対する懲戒と関連法規について		60
14	生き方としての生徒指導	キャリアカウンセリングと今日的な生徒指導の在り方		60
15	まとめと試験	自尊感情を育む積極的生徒指導の意義についてのまとめと確認のための試験		60



《専門教育科目》

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			科目ナンバリング	BTAL43018
担当者氏名	岡本 洋之			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					3 年 ・ I 期

《授業の概要》

特別活動については、その意義、目標、内容、及び指導の在り方を学習する。総合的な学習（探求）の時間については、その意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力の内容を身に付けるとともに、指導と評価の考え方及び実践上の留意点を修得する。

《授業外学習》

特別活動は日本の学校教育の中で特色ある分野であり、また総合的な学習（探求）の時間は時代の要請に応じて近年力が入れている分野である。このことをふまえて、両分野のみならず学校教育界全体の動きを日ごろからニュース等で十分に把握しておくこと。

《テキスト》

中学校学習指導要領（文部科学省）とその解説  
 高等学校学習指導要領（同）とその解説  
 （※ただし購入する必要はない。必要な分を授業中にプリントアウトする。）

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamotoh@hyogo-dai.ac.jp

《参考図書》

中学校新学習指導要領の展開 特別活動編／総合的な学習編（明治図書）  
 高等学校新学習指導要領の展開 特別活動編（同）

《備考》

担当者は教員として高等学校での勤務歴のある実務経験者である

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	学校教育における特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己実現や“チーム学校”の視点を持つ。
	学年による特別活動の変化、各教科等との関連、地域住民や他校と連携した対応等に必要知識や素養を体得する。
	総合的な学習/探求の時間での社会・生活課題探究のための指導計画作成/指導法/評価の知識技能を体得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	60
発表・実技	20
授業内課題	0
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の到達目標及びテーマ、概要、評価方法	自分の学校生活を振り返る	90
2	特別活動（1）	学習指導要領における「特別活動」の目標と内容	学習指導要領を読む	90
3	特別活動（2）	教育課程における「特別活動」の位置付けと各教科等との関連	学習指導要領解説を読む	90
4	特別活動（3）	学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質	現場が抱える問題を考える	90
5	特別活動（4）	「特別活動」における評価と改善活動	現場の課題を考える	90
6	特別活動（5）	集団活動	実践例を調べてくる	90
7	特別活動（6）	家庭・地域住民や関係機関との連携	先進例を調べてくる	90
8	特別活動（7） 総合的な学習（探求）の時間（1）	「特別活動」に関する総括 「総合的な学習（探求）の時間」の意義と教育課程における役割	学習指導要領を読む	90
9	総合的な学習（探求）の時間（2）	学習指導要領における「総合的な学習（探求）の時間」の目標、各学校における目標及び内容の設定	学習指導要領解説を読む	90
10	総合的な学習（探求）の時間（3）	年間指導計画の作成	実践例を調べてくる	90
11	総合的な学習（探求）の時間（4）	単元計画の作成	先進例を調べてくる	90
12	総合的な学習（探求）の時間（5）	探究的な学習の過程と方法	現場が抱える問題を考える	90
13	総合的な学習（探求）の時間（6）	「総合的な学習（探求）の時間」の評価	現場の課題を考える	90
14	総合的な学習（探求）の時間（7）	「総合的な学習（探求）の時間」に関する総括	自分の学校生活を振り返る	90
15	本授業全体の総括	「特別活動」、「総合的な学習（探求）の時間」と「生きる力」	本授業全体を振り返る	90

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育論	科目ナンバリング	BTAL43017	
担当者氏名	杉田 律子	担当形態	単独	
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期	

《授業の概要》

2007年4月より、特別支援教育の対象は軽度発達障害児まで、また通常学級で学ぶ子どもへの支援まで含まれるようになった。今後は一層、インクルージョンが進むと予測され、すべての学校教員が特別な教育支援を必要とする子どもたちの支援を学ぶ必要がある。この講義では、教員免許取得を目指す者として、最低限必要な障害の理解、特別支援教育の歴史的背景について学ぶとともに、子ども達とその家族への支援について考えることができることを目標とする。

《テキスト》

杉中拓央ら編「教職をめざす人のための特別支援教育」福村出版

《参考図書》

新版キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦ら編、クリエイツかもがわ）

《授業外学習》

事前学習課題を提示し、発表し合うことにより深く学ぶ学修を含む。積極的に課題に取り組むこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや課題の添削、コメントを付けて返却を行う。また、オフィスアワーや授業の前後での質問に応じます。筆記テストについては、要点の解説をおこない知識の定着を図る。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い教員になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	教員免許状取得を目指す者として、最低限必要な障害等の概要を理解できる。
	子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解し、障害児の家族への支援について考えることができる。
	外国籍や貧困など特別な教育的ニーズのある子どもへの支援の方法を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	70
小テスト	10
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	特別支援の必要な子どもの理解①特別支援教育の理念	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF, 合理的配慮	学習のまとめプリント	45
2	特別支援の必要な子どもの理解②特別支援教育の制度	特別支援教育の歴史的変遷と特別支援教育の制度、通級指導、自立活動	事前学習プリント	45
3	視覚障害・聴覚障害の理解	視覚障害と聴覚障害のある子どもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程	学習のまとめプリント	45
4	視覚・聴覚障害教育の教育課程および支援の方法	視覚障害・聴覚障害のある子どもの教育課程や支援の方法を理解する。	事前学習プリント	45
5	知的障害、肢体不自由、病弱の理解	知的障害児、肢体不自由児、病弱児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	事前学習プリント	45
6	知的障害児の教育課程および支援の方法	知的障害児の教育課程や支援の方法	学習のまとめプリント	45
7	肢体不自由児の教育課程および支援の方法	肢体不自由児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45
8	病弱児の教育課程および支援の方法	病弱児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45
9	発達障害の理解	発達障害児の教育課程や支援の方法	事前学習プリント	45
10	発達障害児教育の教育課程および支援の方法	自閉症、ADHD, LDなどの発達障害の特性とその支援方法について理解する。	学習のまとめプリント	45
11	特別支援の教育課程と個別支援計画	通常学校における、感覚障害のある子どもに対する個別支援、自立支援の方法について理解を深める。	事前学習プリント	45
12	特別支援の教育課程および支援の方法	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性	事前学習プリント	45
13	家庭支援と教育相談	保護者に対する支援と教育相談 心理的アプローチ	学習のまとめプリント	45
14	特別な教育的ニーズのある子どもの把握と支援①	障害の診断はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	事前学習プリント	45
15	特別な教育的ニーズのある子どもの支援②/まとめ	母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応	学習のまとめプリント	60